

令和2年度の業績

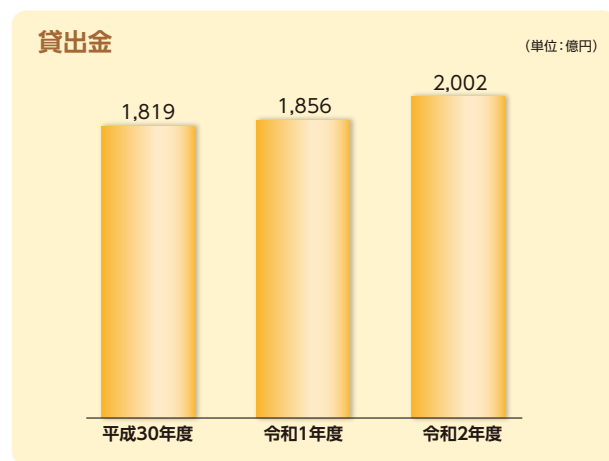
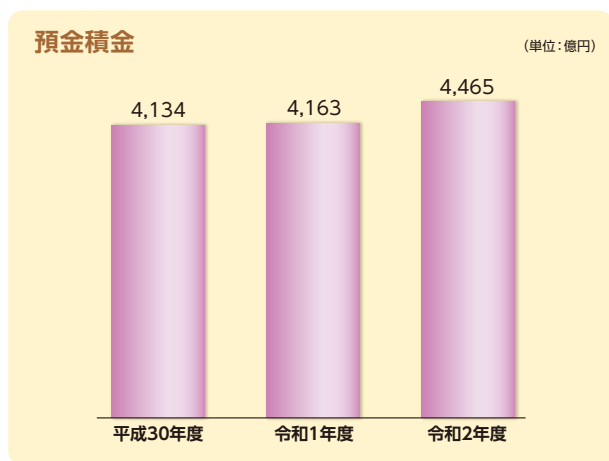
預金・貸出金の状況

預金は、コロナ禍の厳しい状況に見舞われた事業者の皆さまが、当金庫からの融資やコロナ関連の各種給付金などで手元資金を確保された結果、前期比302億円増加し、4,465億円となりました。

貸出金は、事業者の皆さまの資金繰り支援に取り組んだ結果、前期比145億円増加し、2,002億円と

なりました。

これからも、厳しい状況が続く事業者の皆さまの支援を最優先に、適切な金融仲介機能の発揮およびコンサルティング機能の強化などを通じて、地域経済の活性化に努めてまいります。



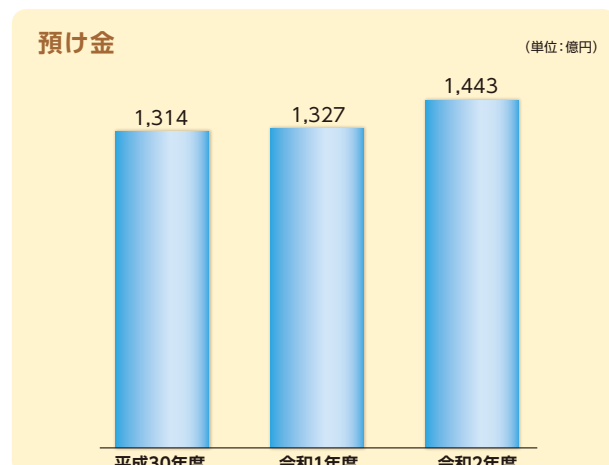
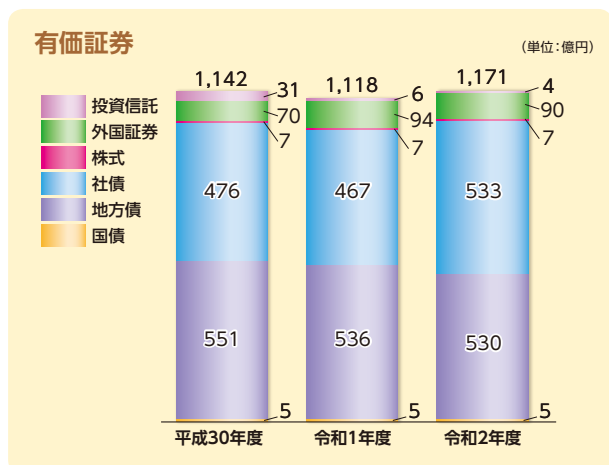
有価証券等の状況

皆さまからお預かりしている預金積金は、主に貸出金として事業活動と暮らしの資金に地元で活用されています。貸出金以外の運用には、有価証券と預け金があります。

有価証券は、地方債、社債を中心に運用しており、期末残高は前期比52億円増加し、1,171億円となりました。安全性・流動性を最優先に格付けの高い国内の債券を中心に運用しています。

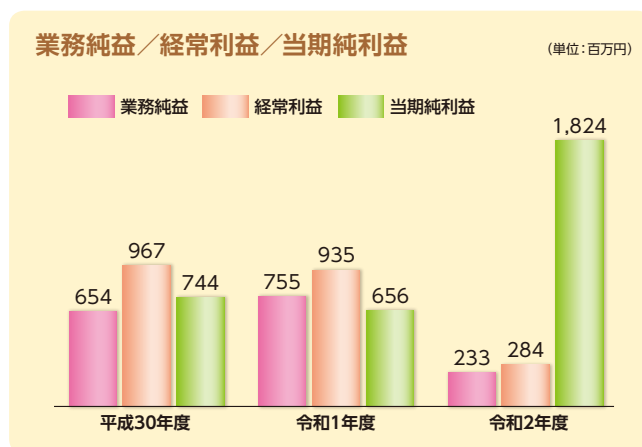
預け金は、全国の信用金庫のセントラルバンクである信金中央金庫への定期預け金を中心に運用しています。期末残高は前期比116億円増加し、1,443億円となりました。信金中央金庫は43兆円の資産を有しAA格* (格付機関はJCR) を取得している金融機関です。

*令和3年6月末現在



収益の状況

貸出金や有価証券、預け金の利回りが低下し、金融機関の本業の利益を示す業務純益は減益となりました。また、将来の不良債権の発生に備えた貸倒引当金の計上により、経常利益も減益となりました。当期純利益については、支店の建替えに伴う不動産の売却の影響により、増益となりました。

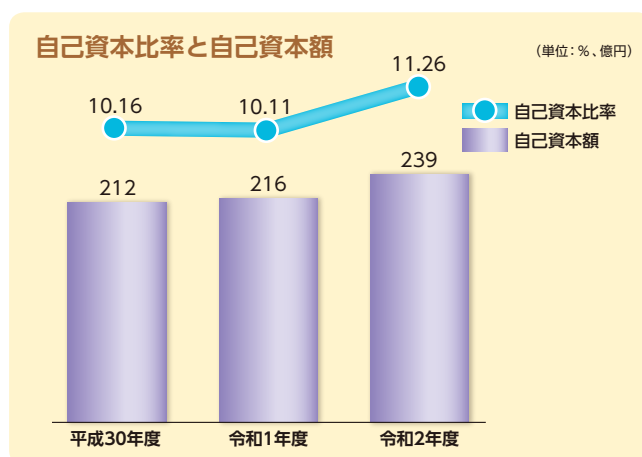


自己資本比率の状況

自己資本比率は、金融機関の健全性・安全性を示す代表的な指標です。

当金庫の令和3年3月末自己資本比率は、11.26%となり、国内で営業する金融機関が求められている基準の4.00%を大幅に上回る水準を確保しています。

なお、公的資金や劣後ローン等による自己資本の増加はありません。



不良債権の状況

令和3年3月末時点での金融再生法上の不良債権は75億5百万円、不良債権比率は3.73%です。当金庫の自己査定基準により厳格に査定し、償却引当基準に沿って貸倒引当金を計上し、万全に処理しています。

不良債権75億5百万円に対しては、回収が確実に見込まれる担保や保証56億43百万円と、不足分に対する貸倒引当金13億78百万円、合計70億22百万円により93.55%が保全されています。

その差額4億83百万円が未保全ですが、特別積立金197億33百万円により十分にカバーされており、不測の事態に対する備えは万全です。

